

## 山梨ワイン発展のための協働と若手技術者の育成

ワイン醸造学習を中心としたワイン県やまなしの地域資源活用、地域活性化、新たな価値を創造する職業人材の育成を目指して

### 事業概要

- ・ **ワイン醸造学習を核に、ワイン県やまなしの地域資源を活用した地域活性化と新たな価値を創造する人材育成**を目指す。
- ・ **「農業×ICT」**により農業の更なる可能性を学ぶとともに、**「栽培×加工×販売」までの通貫した学習**により**農業の6次産業化**を肌で学ぶ。
- ・ **マイスターハイスクールCEOに現役ワイナリー役員**を招聘。**大学・産業界・行政が強力で連携**し新たな教育実践を実現。

### マイスター・ハイスクール・ビジョン

ワインを中心的な題材とし、醸造用ブドウ栽培についてはIoTなど先端技術を活用し農業にDXをもたらす次代の人材を県果樹試験場とともに育成する。ワイン製造については、「学校独自ワイン認定制度」を確立し、食品産業分野で活躍できる人材を山梨大学、県産業技術センターとの共同研究や実験により育成する。販売についてはワインツーリズム等に取り組み消費者の視点から製品の提案ができる人材を県ワイン酒造組合や甲斐市、甲斐市商工会とともに育成する。

### 構成員とその役割

学校内

#### 産業実務家教員

ワイン会社所属の専門家かつ高校非常勤講師として勤務できる教員免許有資格者を配置。

- ・ 醸造用ブドウの栽培管理、ワイン製造実習、物流・販売に関する授業を担当。科目を横断し、多面的に学ぶ。  
（1年「農業と環境」、2年「総合実習」・「食品化学」・「微生物利用」、3年「微生物利用」・「課題研究」）

学校内

#### 他学科との連携

- ・ システム園芸科：釜無川ヴィンヤードの栽培管理、気象データの取得とIoT化、CO<sub>2</sub>ゼロエミッション、スマート農業の実践
- ・ 環境土木科：釜無川ヴィンヤードの垣根作成・3次元測量
- ・ 森林科学科：県産材を使ったワイン樽製造
- ・ 造園緑地科：農産物販売の学習をするための施設建設

#### マイスターハイスクールCEO

岩崎醸造（ワイナリー）の現役役員を配置。事業全体のマネジメントを行う。

学校内

#### 食品科学科

キャリア形成に直結した実践的な学び

- ・ 食品産業分野で活用できる職業スキルの習得
- ・ 栽培、製造から販売までを体系的に学習
- ・ 6次産業化の視点から地域資源を活用できる人材育成
- ・ 学校独自のワイン認定制度により評価

学校外

#### 参画関係者

産官学から多数の山梨ワイン関係者が参画

- ・ 山梨県教育委員会、甲斐市、甲斐市商工会：地域に根ざす人材育成、PR
- ・ 山梨県ワイン酒造組合：現場視察への協力、G.I. Yamanashiの認証
- ・ 国立大学法人 山梨大学、山梨県農政部（山梨県果樹試験場 醸造ブドウ育種科）、山梨県産業労働部（産業技術センター ワイン技術部）：ワインの品質向上に向けた成分分析の指導。独自認定制度の導入へ向けた指導。

## 山梨ワイン発展のための協働と若手技術者の育成

ワイン醸造学習を中心としたワイン県やまなしの地域資源活用、地域活性化、新たな価値を創造する職業人材の育成を目指して

### 令和4年度の目標

#### 【1年目】

- ・醸造用ブドウ栽培に関する学習
- ・先端技術の見学
- ・圃場モニタリング機器の導入
- ・気象データ蓄積と栽培方法検討 など

#### 【2年目】

- ・ワイン醸造に関する学習
- ・大学と連携した成分分析実習
- ・企業技術者、産業技術センター研究者による授業及び技術研修
- ・新学校設定科目の検討 など

#### 【3年目】

- ・マーケティングに関する学習
- ・学校独自の認定制度による学習評価
- ・人材育成システムの検証と改善
- ・これまでの取り組みに基づいた人材育成システムの普及 など

農薬散布用  
ドローンの実演会



地元ワイナリー見学



ワインの瓶詰め実習



### 令和4年度、主に取り組んだ内容

2年目はワインに関する学習領域を製造からマーケティングまで拡大し、生徒主体にイベントやプロジェクト学習を実施した。

- ・ワイン製造実習（5品目のワインを製造）
- ・ワインの販売イベント開催（お披露目会・直売会など）
- ・ワイン販売に関するプロジェクト学習（農ク関東大会出場）
- ・釜無川ヴィンヤードでのブドウ苗の植樹
- ・ループリックを活用したキャリア教育
- ・先端技術見学（県内ワイナリー2社、関連企業2社）
- ・有識者による出前授業（4回実施）
- ・Instagramや特設ホームページを利用した情報発信
- ・校内に農産物などを販売する店舗（東屋）を建設
- ・スマート農業の実践（ドローン実演会や除草ロボットを導入）
- ・ワイン熟成用樽に関する研究

17ans PRポスター



高校2年生によるワインづくり？  
ここにしかない青春、始まる。

# 17ans

ワイナリー

山梨県立農林高等学校 食品科学科



## 山梨ワイン発展のための協働と若手技術者の育成

ワイン醸造学習を中心としたワイン県やまなしの地域資源活用、地域活性化、新たな価値を創造する職業人材の育成を目指して

### 成果

#### ①業界水準の知見を活かした取り組み

- ・マイスターハイスクールCEOの総合的な教育コーディネートを実践した。
- ・産業実務家教員によるワイン関連の座学・実習を実施した。
- ・ワインに関するプロジェクト学習が県農ク大会の最優秀賞を獲得した。

#### ②体系的なワイン学習の確立

- ・ワイン醸造からワイン販売までの学習を実現できた。
- ・ブドウ栽培の学習の基礎を構築した。

#### ③地域に根ざした学校づくり

- ・製造したワインを県内の酒販店7社で販売した。
- ・甲斐市ふるさと納税返礼品として採用され、販売した。

#### ④ワイン業界への就職

- ・令和5年3月、卒業生1名が甲州市のワイナリーに就職が決定した。

#### ⑤教育活動の認知の拡大

- ・メディア露出やSNSでの情報発信により、認知が広がった。

### 課題

## 「ワインに関する教育活動の発展・維持」に向けて

#### ①情報共有の不足

- ・教育体制の確立の為に、ワインに関する教育プランを計画する。
- ・校内での情報交換の回数を増やす。

#### ②持続的な指導体制と教員の資質向上

- ・業界人材の確保と教員研修により、ワイン技術を身に付ける。
- ・担当する職員の業務内容の見直しを行う。

#### ③予算確保

- ・ワイン教育の継続には、年間250万円程度のコストが必要である。  
(※内訳：実習費、圃場管理、見学交通費、出前授業料、人件費)
- ・ワイン製造の為に予算立てと支出計画を立てる。

→最終年度、ワイン製造の自走化に向けた取り組みを実施する



直売所の販売会

ワインお披露目会



### 最終年度 全体計画

- ・ワインに関わる授業カリキュラムの確立
- ・IoTを活用した醸造・栽培ノウハウのシステム化づくり
- ・ワインの販売ルートと製造計画を構築

- ・醸造用ブドウ栽培技術の向上
- ・ワイン製造に関わる技術の向上
- ・マーケティング力の向上 (地域に関する学びを含む)

地域に根付く職業人材の育成  
山梨のワインに関わる農業教育の発展